

# 大かほた 議会だより

No. **169**

令和7年  
**9月定例会**  
10月20日号



議会だよりのページ



## ・ Topic 1

9月定例会で決まったこと  
主な審議結果 P2-5

## ・ Topic 2

委員会の審議状況  
常任委員会レポート P6-8  
特集 町民インタビュー P9

## ・ Topic 3

議員から行政に  
一般質問 P10-17



# 決算 審査

# 令和6年度決算

令和6年度の決算について、決算特別委員会で審査し全ての決算を認定しました。身近な事業、事業費の大きなもの等を中心に紹介します。

(金額は万円未満切り捨て)

全会計支出額(使った金額)

265億6198万円

基金残高 33億7455万円 町債残高 181億4005万円

			歳入(収入)	歳出(支出)
一般会計			166億2810万円	156億6311万円
特別会計 8会計 合計			58億9214万円	56億7087万円
公 営 企 業 会 計	病 院 事 業	収益的収支	26億1260万円	27億1473万円
		資本的収支	3億128万円	4億5393万円
	水 道 事 業	収益的収支	5億5831万円	4億6600万円
		資本的収支	4469万円	2億9832万円
	下 水 道 事 業	収益的収支	7億9756万円	7億6216万円
		資本的収支	3億8062万円	5億3282万円
	総 合 計		272億1534万円	265億6198万円

## 総務費

45億3211万円

- 住民票等コンビニ交付 1254万円
- 高島高校魅力化 742万円
- デュアルスクール受入 253万円



## 民生費

36億5902万円

- デマンド延伸実証実験 160万円
- 子ども子育て支援事業計画策定ニーズ調査分析 198万円
- 介護職員等キャリアアップ支援 20万円
- こども家庭センター整備 529万円

## 衛生費

11億4823万円

- 環境計画推進 962万円
- 出産・子育て応援交付金 836万円
- 住民保健(検診など) 5328万円



## 土木費

14億8330万円

- 公園管理(中央公園バックスクリーン改修工事等) 4839万円
- 住宅リフォーム支援 927万円
- 町道安久津高島線 5366万円



# をチェック

認定  
全会一致

## 特徴的な事業

### 新庁舎建設

- 新庁舎改築工事他 22億3532万円
- 町産木材調達 7402万円



スマートIC整備  
1億5399万円



百野橋橋梁補修  
6480万円



亀岡地区公民館改築 3億9179万円



## 商工費

9億3937万円

- 中小企業設備投資等補助 1147万円
- リーダー経営人財育成塾 990万円
- 地域活性化・物価高騰対策 3655万円
- デジタル行政ポイントサービス 590万円
- ※ふるさと納税額 5億5379万円

## 農林水産業費

5億4337万円

- 地域おこし協力隊 367万円
- 有害鳥獣対策 558万円
- 新規就農者支援関連 3155万円
- みどりの食糧システム戦略緊急対策 251万円

## 教育費

15億19万円

- 日向洞窟遺跡西地区発掘調査報告書印刷 588万円
- 総合交流プラザ照明LED化 1139万円
- 全日本競歩大会 392万円



## 消防費

4億7055万円

- 消防施設整備 1343万円
- 防災資機材整備 73万円
- 消防団員装備品購入 105万円



# 決算

令和6年度の決算が提案され、次の質疑があった。

## 歳入・財政状況

問 町税収入が減少し自主財源比率が低下している。今後、自主財源をどのように確保していくのか。

答 自主財源に限らずあらゆる財源を検討していく。特にふるさと納税が有効な歳入確保の手段と考える。また歳出削減にも取り組み収支バランスを整えていく。

問 ふるさと納税だけではなく、地方税など自主財源を伸ばす方針はあるか。

答 新たな財源を見つけるのは困難。現実的にはふるさと納税を中心に取り組んでいく。

## 高島高校の魅力化

問 魅力化事業の内容は。

答 経済面だけではなく、高島高校や生徒をクロージアアップするよう取り組みを図っていく。

## 商工観光イベント

問 げんきな高島イベント助成金600万円に対する経済効果は。

答 青竹ちようちんまつりでは、マルシェ、商店街、町内事業所、露天商分を含めると1000万円ほどの経済効果を生み出した。



## 中央公園バックスクリーン改修

問 中央公園バックスクリーン更新の改善点は。

答 老朽化による倒壊の恐れがあり、安全性確保のため更新。野球の背景環境を整備。

## 放課後児童クラブ

問 熱中症対策等の環境改善事業はその都度行うのか、計画的に行うのか。

答 年度ごとに必要箇所を取りまとめ、次年度以降に反映している。

## 有害鳥獣対策

問 長期的な改善計画を作るべきではないか。

答 現状は年度対応だが、長期的な全体計画の検討も必要と考える。

問 有害鳥獣対策事業で約27万円の不用額が出ているが、捕獲量へ

の影響はあるか。

答 協議会事業と合わせて実施しているため金額に差異はあるが、捕獲量に影響はない。

## 災害対策

問 災害対策用のラップ式トイレのように、自治体間において非常時備品の貸し借りするような制度はあるか。

答 県からはトイレカー等を借用できる。近隣市町村との制度はないが、災害時には緊急的な物品のやりとりを図る。



## 下水道事業会計

問 今後の管路更新の見通しは。

答 計画に基づき調査・点検・改築を進める。必要な更新は補助事業を活用し計画的に実施。

## 水道事業会計

問 現金預金12億5000万円の使途方針は。料金を下げられないか。

答 水道料金は平成19年に改定し値下げをした。資金は人口減少による収益減への備えと老朽施設・管路更新など将来の設備投資に充てる。

## 病院事業会計

問 病院経営が全国的

に厳しい中、昨年度の純損失1億1500万円の状況をどう改善していくのか。

答 全国的に診療報酬が物価や人件費高騰に追いついていないのが大きな要因。高島病院では入院収益の確保を目指し、稼働率向上に全職員で取り組んでいる。全国病院団体から国へ要望書も提出されており、補正予算での支援金や診療報酬改定への働きかけに同調していく。

問 診療時間を延長すれば収入増につながるのではないか。

答 延長すれば患者は増えるかもしれないが医師・看護師・技師・事務職員などの人件費や電気代が増加し、費用の方が上回る見込み。また町内診療所とのバランスもあり、延長は慎重に検討する。

# 条例

## 選挙の公費負担改正

町の選挙における選挙運動用ビラとポスターの作成に係る経費の限度額を引き上げるもの。

## 地方公務員の育児休業の多様化

育児時間の取得方法の多様化等に関し、条例を改正する必要があるため。

全会一致で可決

# 契約の変更

## 八坂橋補修工事

変更額1920万円増

施工にあたり橋桁の塗膜成分を調査したところ、労働安全衛生法により特定化学物質に指定されている鉛とクロムが検出され、塗膜剥離剤を用いた工法が必要となったため。

全会一致で可決

# 11会計 補正総額 9億7129万円

## 可決 全会一致

# 補正 予算

## 主な会計

一般会計	7億3894万円（総額 158億5336万円）
国民健康保険	7365万円（総額 27億3711万円）
介護保険	1億4478万円（総額 30億9080万円）
後期高齢者医療	377万円（総額 3億2612万円）
宅地造成	347万円（総額 2億 171万円）

## 注目事業

庁舎整備等経費	3028万円
補正理由：庁舎完成後の周辺道路の整備	
防犯カメラ設置補助事業	200万円
補正理由：町内4商店街の防犯強化	
幼児施設等給食費負担軽減事業	256万円
補正理由：食材費の物価高騰による負担増に対する補助	
斎場管理経費	336万円
補正理由：施設維持のための保全事業	
未来を育む農業担い手育成支援事業	226万円
補正理由：継続的発展を目指す農業担い手の取り組みをオーダーメイド化型で支援	
新型Jアラート受信機更新工事	352万円
補正理由：人工衛星の新型化対応のため	



▲防犯カメラ



▲工事中の八坂橋



## 委員会活動レポート

### 総務文教

#### 安全なまちづくり

有害鳥獣が町内道路に出没しているため、安全なまちづくりに向けて対策が求められる。

現在、児童の夜道の通学等に安全を期すために、防災行政無線や猟友会の協力および学校の連絡網を使い、大きな事故やけがにつながらないよう、様々な面から



今後の避難所の基準を満たすためには、予算の確保が大事であり、全国的にも半数以上が足りない結果となっていることから、国からの支援等も必要になってくる。

#### 高島高校入学支援

7月31日に高島高校のオープンスクールが開催された。

その中で、高島町の支援内容の周知はもちろんのこと、県外入学生の募集については、県で主催するバスツアー事業を活用しながら入学者増に向けて支援に動いている。

また、オンラインイベント等も高校と調整を図りながら説明会の実施をするこ

#### 複式学級を視察

【日時】

7月25日（金）

全学年が複式学級となっている二井宿小学校と7年度から3、4年生で複式学級となった亀岡小学校を視察した。

教育環境等検討委員会の中で意見交換が行われ、今後は教育現場との情報共有が必要となってくる。議会としても教育環境を視察研修するこ

るとともに、バスツアーにおいては県外から7組が入学を検討していることから、入学支援に力を入れた効果が見えてきている。

とで、現状と課題を注視していかなければならない。二井宿小学校では、どの学年の教員も児童も慣れた雰囲気です。授業が進められていた。



課題としては、体育や音楽などの大勢を必要とする教科において他の学校との調整が必要とのことであった。給食提供は、十分な量と感

じた。亀岡小学校では、3年生7人と4年生9人の複式学級であった。数年前から開設に備え、教員の研修等で準備を進めていたとのことで、

児童においても、問題把握、自力解決、協働学習を取り入れながら順応していると感じた。

どちらの学校も「自ら学ぶ力」をチャンスと捉えていて、何よりも児童のやる気と元気があり、コミュニケーション力を発揮している印象を受けた。

## 委員会活動レポート

### 産業厚生

#### 有機農業

##### 地域認証制度

①「まほろばみどり」認証者数は、現在7人ではほぼ野菜生産者。今後5人増の見込み。

②出品数は販売店と直接交渉。価格設定は出品者が決め、売れ行きは好評。

で消費者にも加わっていただくことを企画している。

##### 抑草ロボット

①実証試験の結果、ひえには効果があ

#### 自給野菜組合懇談会

【日時】

7月31日（木）

【講師】

・和地区自給野菜組合 高橋 稔氏  
・糠野目地区自給野菜組合 長谷川 正氏

①昭和39年設立

高齢化は進んでいるが会員数は8人ほど。



②1か月前に給食メニューを入手し、定例会にて日程、数量、供給担当を決める。

③給食野菜の約6割をカバーしている。

④野菜の形に

##### 糠野目地区自給野菜組合

①会員数が少ない。高齢化と納入価格が割に合わない。ほぼボランティア状態。

②月1回の定例会で、担当教員も出席し、献立表に沿って、供給種目を決めて

### 委員会体制の変更

半期交代により委員会体制が変わりました。（詳細は「広報たかはた10月号」掲載）

総務産業常任委員会  
委員長 木村雅博  
副委員長 菊地英雄  
委員 伊澤良治  
山木義昭  
金子陸夫  
竹田正樹  
西方茂太

厚生文教常任委員会  
委員長 平 誠  
副委員長 佐藤純子  
委員 直島義友  
武田 修  
秋葉晶子  
武田正隆  
青柳 貴

議会運営委員会  
委員長 秋葉晶子  
副委員長 菊地英雄  
委員 平 誠  
木村雅博  
青柳 貴  
金子陸夫

広報広聴常任委員会  
委員長 青柳 貴  
副委員長 竹田正樹（広報）  
武田正隆（広聴）  
委員 議長を除く全議員









動画配信はこちらから

## 米の増産は可能か

### 町長 米生産者の選択によると考える

**問** 石破総理が令和8年度から減反をやめ、米の増産を図ることを明らかにした。しかし次の理由から増産は相当難しいと考える。一つ目は高齢化で耕



▲町産米の増産を願う

作をやめる農家が多いこと。二つ目は農機具が高額で、故障すれば耕作をやめる農家が増えること。三つ目は減反した田を復元する労力と費用負担が大きい

こと。  
このような状況でも米の増産ができるのか。  
**答** 今の状況のように、米価が上昇し、農業所得が向上すれば米増産希望の生産者はおのずと増えてくると思われるが、あくまで農業所得等の状況を鑑みて生産者が選択するものと考えてる。  
町としては、生産者の所得向上が最優先と考える。

### 平和な国・町を

**問** 1945年に広島と長崎に原爆投下された後に終戦し、今年で80年がたった。翌年生まれて戦争を知らない私だが、あの悲惨な原爆を決して使用すべきではないと考える。  
平和宣言をしている町として、具体的な行動をとるべきではないか。

**答** 我が国が唯一の被爆国である立場から恒久平和を希求する平和都市宣言は、私たちの平和な日常生活の礎であり、自治体としてでき得る平和な地域社会の構築へつながる取り組みを行っていきたい。  
**自然災害後の対応について**  
**問** 地球温暖化により各所で災害が発生している。当町の災害発生後の対応は。  
①被災した道路、河川、堰等の復旧工事の進め方のルールがあるのか。  
②仮設住宅の建設予定地は決めているのか。  
また、仮設住宅の入居条件はどういうものか。  
③罹災証明書等の交付の体制はできているのか。  
④国や県との連携について、基本的なルールを事前に実習しておくべきではないか。  
⑤気象台との連携の重

要性をどう考えるか。  
**答** 災害が発生した場合、建設課による現地調査を実施し、山形県に災害の規模・復旧費用を報告。その後、国土交通省による災害査定を経て、災害復旧事業を町が行う。  
仮設住宅は、中央公園と旧二中のグラウンドを建設候補地としている。全壊等で自力で住宅を確保できない方が対象で、町が入居者の選定等を行う。  
罹災証明書は一連の事務が全国で統一され、他自治体からの応援職員も処理がしやすくなり、迅速な対応が期待できる。  
災害時に国・県との連携調整を図るため、内閣府の研修を活用した確かな災害マネジメントができる人材を育成する。  
また、気象台とはホットライン等の連絡体制を構築している。



動画配信はこちらから

## 「子どもが泳げる」対策なしでいいのか

### 町長 近隣の施設を有効に活用いただきたい

**問** 町内の学校プールは、今年の夏休みも一律閉鎖された。  
一方、近隣市町ではスクールバス等を活用し、町民プールまでの送迎を実施し、夏休み中の「子どもが泳げる」対策を確保している。  
子どもたちの安全が大事と考えるが、学校プール閉鎖では、泳ぐ機会や場がなくなる。  
元気でたくましく成長させるためにも「子どもが泳げる」対策が必要ではないか。

**答** 一学期は、熱中症対策を講じてプール授業を実施した。夏休み期間は、移動時における熱中症対策上、児童の安全が確保できないため開設しない。  
町民プールはないが町内に設置されている「置賜スポーツ交流プラザユルット」など、近隣の施設を有効に活用いただきたい。  
**町民の考えや意見を反映できる場の確保を**  
**問** 当町の学校教育は150年以上の歴史があり、その歴史が変わる可能性もある。  
その中で、町民の学校教育への理解と関心が高まることを期待する。  
保護者、地域住民、子どもたちの考えを十分反映できる場の確保や、結論ありきではなく合

意形成に十分配慮すべきと考えるが、どうか。  
**答** 町民・保護者等の意見や考えをうかがう機会は必要である。丁寧に話し合う機会を設定し、合意形成に努める。  
**競争より一人一人が大事にされる教育を**  
**問** 町民の教育問題へのアンケート調査で、学校教育で大切に考えることが示された。  
子ども同士が競争し「勝つ・負ける」の教育より、「一人一人に寄り添いきめ細かい指導こそ大事にしてほしい」との考えがアンケートで最も多かった。  
町民の考えをどのように捉え生かそうとしているか。

**答** 学校規模に関わらず、「安心して生活できる学級の環境」は学校経営の理念上、最も重要である。  
現在、山形さんさんプラン少人数学級編成により、きめ細やかに丁寧な指導できる環境にあり、これを基に、子ども一人一人の良さを捉え、伸ばすことに今後も努めていく。  
**様々な学校の在り方の検討を**  
**問** 県内外の統合問題で様々な方法がとられてきた。統合一辺倒ではなく、休校や分校など地域の現状にあった

選択も取られてきた。  
文科省も地域で「統合せず、独立校として存続する」場合もあるとしている。  
子どもと地域を真ん中に、共通の認識を積み上げていくべきではないか。  
**答** 子どもたちの学びを中心に据え、高畠町立小学校の教育環境等検討委員会からの提言も踏まえ「(仮称)高畠町立小学校適正規模等基本計画」の策定に注力していく。



▲元気に跳び回る子どもたち



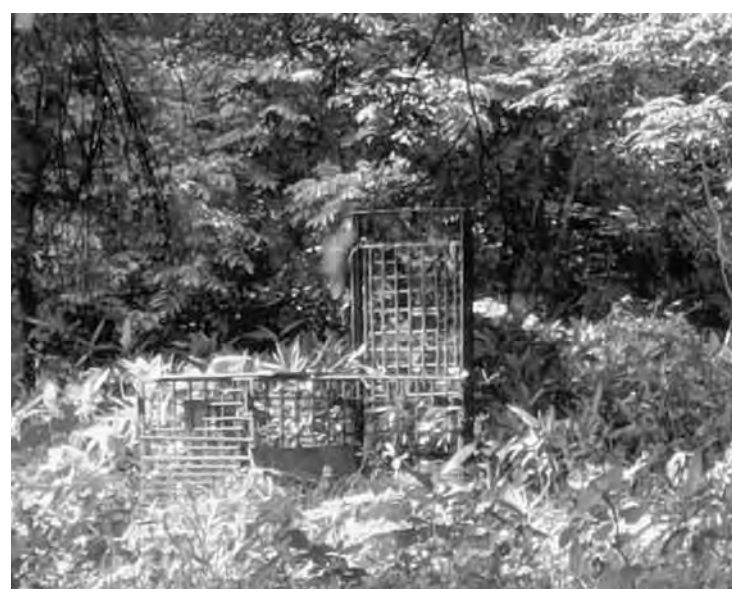
さとう じゅんこ  
佐藤 純子 議員



動画配信はこちらから

## 有害鳥獣対策は

町長 効果的な対策が図られるよう研究していく



▲行政と地域の連携体制の強化が急務

問 町では令和6年度から8年度にかけて、「鳥獣被害防止計画」を策定し、捕獲や防護柵の設置、環境整備を進めているが現場から

は「捕獲体制の人員不足」「柵の維持管理が困難」「集落単位での対応に限界がある」などといった声がいまだ多く寄せられている。

答 捕獲体制の強化について、大幅な増加ではないが地区によっては地元農家や転入者など隊員が増加しているところもある。

また若手に限らず、自分の農地は自分で守るといった方に対して、町単独の支援を行っている。

報奨制度の見直しについては、7年度から捕獲奨励金について見直し、拡充している。

また物価高騰支援として弾薬代等への支援を強化している。防護柵の整備と維持管理については、以前設置した電気柵やワイヤーメッシュの破損や故障に対して更新は可能で

あるが、集落単位での管理についても含めて、意見をお聞きし、地域と連携を取りながら、役場関係課および関係機関と連携を取り、効果的な対策が図られるよう、防災面も含め、町としてどのような形で支援できるか、研究していく。

また物価高騰支援として弾薬代等への支援を強化している。防護柵の整備と維持管理については、以前設置した電気柵やワイヤーメッシュの破損や故障に対して更新は可能で

捕獲後の保管・加工・処理までを含めた一連の流れを確立することが、有害鳥獣対策を単なる『負担』から『地域資源の活用』へと変える鍵となる。

本町として、国の補助事業や近隣自治体との連携も視野に入れながら、持続可能な仕組みづくりに取り組むべきと思うが町の考えは。

問 今のところ、町主体とした認可処理施設の設置によるジビエと

山形県が定める学校安全に関する手引きや専門的見地からの指導を参考に、今後、野生動物対応に関する安全教育、学校安全への取り組みを検討していく。

問 町民一人一人が野生動物との遭遇時に適切に対応できるように、学校や町として避難訓練などの計画は。

問 今年には戦後80年を迎えたが、当町は唯一の被爆国の一自治体として核兵器廃絶を願い、41年前に「平和都市宣言」をしている。



▲平和への想いを促す取り組みこそ

問 今年には戦後80年を迎えたが、当町は唯一の被爆国の一自治体として核兵器廃絶を願い、41年前に「平和都市宣言」をしている。

お ち ひで お  
菊地 英雄 議員



## 平和への関心をどう促してきたのか

町長 戦没者追悼式を実施している

問 現在実施している事業としては、戦没者追悼式であり、自らの地域の戦争体験を継承しながら、不戦の誓いや恒久平和実現への思いを強くしていただく機会となっている。

問 戦争体験者の減少、高齢化で次世代に直接伝える機会は難しいが学校など教育活動を通じた取り組みは。

答 生命を大切にする心を育てることや、愛国心や外国の文化などの理解を深める事柄を各教科や総合的な学習の時間および特別活動

問 今後、未来を担う中学生を広島や長崎等に派遣し、戦争の惨禍を直接見聞きして学び平和の大切さを心に刻んでもらうことも重要と思うがどうか。

また、町独自の支援策などは考えているか。



動画配信はこちらから

問 中学生の広島や長崎等への派遣については、教育委員会や学校

問 最低賃金引き上げで人件費増額が見込まれるが、町内企業に及ぼす影響などの実態をどう認識しているか。

問 町内企業が国の支援を活用したかは公表されていない。町独自の支援については、国の政策動向を注視しつつ、本町の中小企業設備投資等補助金などを通して、継続して支援を行っていく。





動画配信はこちらから

## 電気柵の広域設置に工夫を

町長 経済性や有効性を踏まえて県へ要請していく

問 近年クマやサル、イノシシなど野生動物の被害や人的被害が多発している。境界線の環境整備を行う上で、電気柵に加えてワイヤーメッシュ、侵入防止柵、グレーチング設置などで強化しては。

答 現在、県単事業に町からの負担も合わせて助成している。この事業にはグレーチングは対象になっていないので、経済性や有効性を踏まえて県へ対象資材の要望を行っていく。

問 法改正により市町村町の判断で「緊急銃



▲地域ぐるみで柿の木の伐採を

集落ごとの実状に合わせた環境点検を

問 集落内を巡回し、被害箇所を確認することが重要であり、被害対策実施隊に加え、定期的なパトロール体制や地元監視補助員制度などが必要と思うが。

問 生息状況調査を実施し、調査状況等の見える化を進め、獣害対策をまちづくりの一つとして捉え、仕組みづくりをしては。

答 「自分の農地は自分で守る」ことが基本であるので、地域全体

広域捕獲での有効的な対策を

問 近隣市町村との連携をとり、監視カメラでの生態や行動の確認、センサーカメラ及びGPSによる調査を実施すべきと考えるがどうか。

答 現在、被害のあった農家へセンサーカメラを貸し出して被害調査を行っている。また、鳥獣が罠にかかると携帯電話に連絡が来ると装置も猟友会へ貸し出して活用している。さらに、各地域の状況を把握し、地域との連携を取りながら効果的な対策が図られるよう研究していく。



## 町報掲載「がん征圧月間」の効果は

町長 がん検診受診への行動変容につながっている

問 毎年町報9月号に「がん征圧月間」として、国の「がんを防ぐための新12か条」を掲載し、がん征圧に向けた活動をしているが、その効果をどう捉えているか。

答 町報では、がん予防の正しい知識と早期発見・早期治療の重要性を中心に発信しており、その効果として、町民の生活習慣や環境の見直し、がん検診受診への行動変容につながっているものと捉えているが、数値としてその効果を示すのは難しいものと考えている。

問 厚労省の委託機関のホームページ

問 免疫の分野は、専門性が高く、免疫そのものに関する詳細な指導を町が直接行うことは難しいものと考えている。

また、免疫の有効性については、これまで行ってきた十分な睡眠、バランスの良い食事、適度な運動、禁煙など、免疫機能を維持するための生活習慣について、引き続き広報やホーム



動画配信はこちらから

町内の人工透析患者の状況は

問 国内の人工透析患者数は、平成2年は10万3千人だったが、令和2年には3・4倍の34万8千人に急増している。高畠町ではどのような状況か。

答 6年度末における人工透析患者数は49人で、3年度末の35人と比較すると14人増加している。

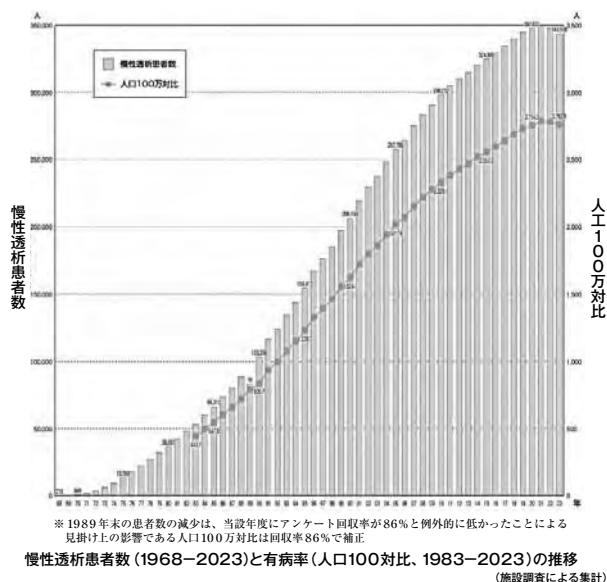
ページなどを通じて発信していく。

また、人工透析に関する更生医療の新規申請者の推移をみると、新規の人工透析患者数は6年度で6人となっており、近年は平均すると6人前後で推移している。

人工透析回避に向けての指導状況は

問 健康診断などでの採血データにあるeGFR（腎臓の糸球体が一時間にどれだけ血液を濾過したかを示す値）が60未満になると腎機能低下の黄色信号

わが国の慢性透析療法の現状（2023年12月31日現在）



問 人工透析に至る原因疾患のうち、糖尿病性腎症など、生活習慣が発症に影響する疾患を予防するため、適正体重の維持やバランスの取れた食事、減塩、運動、適正飲酒、禁煙などの推進に関する情報を広報やホームページで広く発信している。

次に、国民健康保険や後期高齢者医療保険の被保険者で、健康診断の受診結果、肥満や血糖、脂質、血圧、尿酸の値が要指導、要受診判定などのうち医療機関の未受診者に保健指導や受診勧奨を行っている。

eGFRについては健康診断の結果で生活習慣病予防に向けた保健指導や糖尿病および慢性腎臓病重症化予防事業対象者の抽出、指導後の評価指標などに活用している。





## 町民が望む 豊かさや暮らしを

町長 安心して暮らせるまちづくりを進めていく

**問** 町民が暮らしやすい、ずっと住み続けたいと感じるまちづくりを進めてはどうか。

**答** 誰もが安心して日々を過ごせる住環境、将来に希望が持てる教育、やりがいを持つて取り組める仕事、ゆとりのある子育て、人とのつながりや地域への愛着や誇りを育む文化、豊かな自然との共生など、一人一人の声や想いが反映され、将来にわたって安心して暮らせるまちづくりを進めていく。

**西町西工業団地の拡張が必要では**

**問** 働く場所が必要だ

**観光客の誘客を**

**問** 観光地、資源の整



動画配信はこちらから



▲賑わいを見せる瓜割石庭公園

**問** 小学校の教育環境等の検討を諮問している段階であり、教育委員会の答申を基に、特別支援教育分野に関する事項についても検討が必要と考える。

**問** 本町は、魅力的な観光資源が数多くあり、どの観光地も多くの関係者の協力により維持管理がされている。町では、サイクリングで歴史を感じるスポット巡りを安心してできるよう「ガバメントクラウドファンディング」の寄付金を活用し、緑道沿いのベンチや花壇の整備、遊具等の改修を行い、既存の価値ある地域資源の再

備と移動手段をどう考えているのか。

**高齢者にやさしいまちづくりを**

**問** 玄関前の除雪車による雪塊の処理が高齢者の課題。高島まるごとおうえんポイントとの連携など、新たな地域ボランティアが必要ではないか。

**答** 町では、除排雪に関する相談窓口の委託事業や高齢者世帯等への除雪費助成金事業を実施している。

**全ての子どもに  
よりよい教育を**

**問** 特別に支援を必要とする子や別室登校の子が増えている。特別支援学校や学びの多様な化学校を設置する考えはないか。



## 文化のまちづくりの これからは

町長 様々な団体の活動支援を検討する

**問** 施設管理運営支援としての自主事業協会の復活など考えてみてはどうか。町民自らが見たいもの、聴きたいものの選択に参加できることはとても大切なことで、文化事業は必ず生き生きとした町民の姿を見出せるものと思うがどうか。

①様々な文化団体が活動しているが、もっともっと充実させるべく、支援が重要ではないか。

②ねほだれ大会のような楽しい舞台づくりをもう一度試みることはできないか。

**答** 協会の復活については、運営方法等の面で難しいと考えている

が、利用者懇談会の実施など、文化ホールが地域に根ざした文化芸術活動の場として、指定管理者と共に利用促進に努めていく。

また、様々な団体が生き生きと活動できるための支援も十分検討したい。

そして、必ず満席となっていた「ねほだれ大会」のように、出演者も観客も一緒に喜びを分かち合えるような事業を展開していく。

**訪問介護等の実情は**

**問** 訪問介護や訪問看護サービス事業の充実が要望されているが、全国的に自治体によっては、特に訪問看護を

廃止しているところが目立っているというが、どうなのか。わが町の状況は。

**答** 訪問介護等の近年の町の実情は、訪問看護事業や訪問介護事業の事業所数に増減はなく、サービスの提供体制は安定している。

町も現状を把握しながら、関係機関と連携し、介護保険制度の適切な運営と事業の充実を図ることとしている。

**平和教育の  
取り組みは**

**問** 感受性の強い時代になり、しっかりとした平和教育を行い、次世代へつなげていくことが大切と考える。学校教育での平和教育を取り上げることがどのように考えるか。

**答** 授業の中で、教科書や資料を通じ、戦争

がもたらす影響や、戦時下の人々の思いを想像し、共感する力を育むことは非常に大切である。

過去の悲惨な出来事について学ぶとともに、今、世界で起こっ

ている争いにも目を向け、同じ過ちを繰り返さぬよう、平和に対する意識を高めることは、子どもたちにとって、非常に重要である



▲生き生きとした文化事業を望む



## 日頃の鍛錬を礎に常に万全を期す

# 高畠町消防団第5分団



今回の“きらり”まほろば人は、高畠町消防団第5分団（和田地区）幹部の皆さんです。

地域の火災予防に努め、日々昼夜を問わず活動を続けています。年々、団員が減少している中でも部の再編成を行いながら、限られた人数で組織の維持や活性化に尽力しています。

地域に必要な組織である、今後の消防団活動をどのように考えておられるか話を伺いました。

### 消防団の現在の活動体制状況は？

第5分団の団員数は124人で町内の消防団の中で最も団員が多い組織となっております。しかし、昨今の少子化により団員数は減少傾向にあり、勤務体制の多様化も重なり、万全な出動対応の必要性から令和7年度、班統廃合により3班減の11班編成となりました。

基礎的な訓練や点検方法をベテラン団員が新人団員に教えることで、技能向上を図り、有事の際に万全な体制で活動に当たられるように日頃から努めています。

### 消防団活動の魅力とは？

地域住民の安全安心を守る組織として、休日を削り訓練活動をする必要があり大変なところもありますが、年齢層が幅広い消防団は様々な活動の中で若手団員にとって人生の先輩から教えてもらえることはたくさんあります。

消防団活動は地域とのつながり無くして行うことはできません。これから地域の担い手となっていく若手団員が、地域の方々と「共助」の精神の

もと活動をしていくことが和田地区民への信頼を得ると共に、活性化の一助となると考えております。

### 新たな仲間メッセージ

消防団とは、地域とつながるボランティア団体です。知識や技能は先輩団員が熱心に教えてくれるのでまったく心配はいりません。仲間と協力して災害から町を守ることのやりがいと一緒に感じてみませんか。

### 地域の皆様にメッセージ

最近は火災出動だけではなく、異常気象による災害級の大雨など消防団活動の範囲は広がっており、地域の方々との連携が被害を最小限に抑えることにつながります。

消防団として有事の際に万全な体制で活動に当たれるよう日頃の訓練を実施して参ります。

今後とも連携体制強化の継続をよろしくお願いいたします。

委員長  
副委員長  
委員

編集委員

青竹秋木金佐西  
柳田葉村藤方  
正晶雅陸純茂  
貴樹子博夫太

## 12月定例会を傍聴しませんか 12月9日(火)～19日(金)

本会議の傍聴は自由です。  
詳しい日程は12/3以降町ホームページでご確認ください。  
問い合わせ先 議会事務局 ☎52-4485